

Spring  
Has  
Come

# ONE WORLD Smiles だより



連載 改めて考えたい 小学校英語で大切にしたいこと 第3回

## 「英語の授業は楽しい」と言わせたい

### ✓ 中学校若手教員の頃の目標の変化

私が中学校英語教員になって初めて設定した目標は、「生徒に英語の授業が好きと思わせる」でした。当時は英語のゲームが流行していたので、毎日のようにゲームを考えては行っていました。毎学期末、生徒に「英語の授業は楽しいか」や「授業のやり方で変えるべきところはあるか」の項目を含むアンケート調査を行い、その結果に一喜一憂していました。

目標を設定した当時、「英語の授業は楽しいと思ってくれれば、学習も自ら進んで行ってくれる」と考えていました。そして今でもこれについてはその通りであると思います。しかし、中学校では、英語力が身につく、「英語ができる」という自信をもたせなければ、「英語は楽しい」とはならないことに気づきました。そこで、徐々に目標は「楽しい」から「英語力を身につける」に関するもの変わっていきました。

例えば、年間の目標として立てたものとして「(教師が)英語を多用して授業を行う」「チャットを2分間以上続けることができる」「1分間に80語以上の速度で文章を理解することができる」「ディベートを行う」などがあります。そして、その一つひとつの目標に対して、指導方法や言語活動を考えてきました。

### ✓ なぜ「英語は嫌い」になってしまうのか

中学生や高校生のなかに「英語は苦手」という生徒がいます。「苦手だけど楽しい」と言ってくればよいのですが、「英語は嫌い」という生徒もいます。「英語は嫌い」という生徒のなかには、テストの得点力の高い生徒も含まれます。さまざまな団体が中学生や高校生を対象に実施したアンケート調査の結果を見ても、英語は「嫌いな教科」の3位以内に必ず入っています。

中学生や高校生が英語を嫌う理由を考えてみました。そのひとつが、「英語をいくら学習しても達成感を得にくい」ことが挙げられると思います。英語はいくら勉強しても、学ばなければならないことがどんどん見えてきます。言語の学習であることから、何をもって「できる」と言えるのかがわかりにくい教科と言えるかもしれません。



千代田区立九段中等教育学校講師  
都留文科大学非常勤講師

本多 敏幸

ONE WORLD Smiles  
代表著者

### ✓ 小学校の英語は「楽しい!」を大切に

中学入学時点において、「英語が嫌い」という子どもが増えているとよく聞きます。しかし、これは小学校の先生方の指導が云々という理由でもなさそうです。私は、小学生や中学生の「英語が嫌い」になった原因は大きく2つあると考えます。

ひとつ目がプレッシャーです。テレビや雑誌には、英語学習に関する広告が実に多く見られます。「英語はできるようにならなければいけない」と、知らず知らずのうちに子どもが感じているのではないのでしょうか。そして、保護者から受ける期待も高いと考えられます。

ふたつ目は、周りの子どもと自分とを比較してしまうことです。最近は幼少期より英語を習っている子どもが多いので、授業のなかで英語の発音が上手な人や英語を流暢に話せる人がいると、劣等感を抱くことも考えられます。「英語は大切」と、いろいろなところで刷り込まれている子どもにとって、英語の授業は楽しみでもあり、かつ不安であるのかもしれません。「英語が好き」と思えるうちはよいですが、教師や友達から間違いを指摘されたり、うまくできないと思ったり、ちょっとした挫折を経験したりすることで、好きだったぶん、嫌いに転じてしまうことがあります。

「小学校の英語の授業は楽しかった」と言って入学してくる中学1年生が多数います。間違いを気にせず、物怖じせずに英語を話す生徒を見て、すばらしいと感じます。おそらく、小学校の先生が児童の情意面の配慮も上手に行ってくれたのだろうと感じています。学習初期の段階では、「英語は楽しい」や「英語は好き」と思わせるだけで、授業は大成功であると、私は思います。



## 「なんか楽しい！」のまま 次のステージへ

足立区立栗原小学校 主任教諭 田中 貴子

### 「英語嫌いをつくらないで！」～中学校の先生のことばを胸に～

現在私が勤務している足立区は「小中連携教育」に力を入れています。近隣の小学校と中学校、数校がグループになり、9年間を見通した授業づくりや学びの連続性を意識した教育のために、年間を通して研修をしています。そのなかで、中学校の英語の先生方に、児童にどの程度の学習をさせて進学するとよいのか質問をしてみました。私としては、アルファベットの読み書き、英語でのあいさつ等と考えていたのですが、「英語嫌いをつくらないで！」この一言でした。とにかく英語を楽しんで、「英語が好き！」少なくとも「英語、嫌いじゃないかも!？」という状態で、中学校へ送ってほしいとのことでした。なるほど！

そのことばを聞いて、改めて、子どもたちが楽しみながら英語にふれる学習をしていこうと考え、日々試行錯誤しながら取り組んでいます。そのなかから、ウォーミングアップとアクティビティそれぞれについて、子どもたちの反応が良いものをいくつか紹介させていただきます。

### ウォーミングアップ3選

#### 【1】チャレンジ・ソング

高学年で行っていた活動で、「子どもたちの好きな英語の曲」をみんなで歌うというものです。授業始まりの数分ですが、子どもたちの好きなアーティストの曲や、好きなアニメの曲など、とにかく楽しく英語の曲を歌うことにチャレンジします。

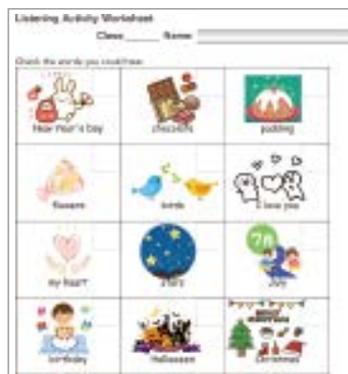
人気の曲は、例えば *Dynamite* (BTS)、*Make You Happy* (NiziU)、*We Will Rock You* (Queen)、*Last Christmas* (Wham!) などです。

ワンフレーズ歌えるだけでも満足するのか、とても良い顔で歌います。これは子どもたちの自信、そして子どもたちの「英語好き」につながるのではと期待しつつ、行っています。

#### 【2】リスニング・アクティビティ

英語の曲を聞いて、それまでに練習した単語や表現を聞き取れたら、ワークシートにチェックする、という簡単な活動です。イラスト入りのワークシートを各

自に配り、自分が聞こえた・わかったと思った単語・表現のマスをチェックしていきます。たとえ間違えていたとしても、目立たないのもこの活動のいいところ。最後は、歌詞入りの動画で振り返りながら、みんなで歌えるところを歌います。これは既習の単語や英語表現の復習になります。その時期に合わせた曲を取り入れ、楽しんで取り組んでいます。



*I Just Called to Say I Love You* (Stevie Wonder) 用に作成したワークシート

#### 【3】コレクション・オブ・ワーズ

アルファベットを1つ決め、そのアルファベットから始まる単語を言う「ことば集め」です。2つのチームに分け、お題のアルファベットから始まる単語を交互に言い、たくさん言えたチームの勝ち。

T : What words start with “a”?

A : Apple.

B : Airport.

A : America.

B : Animal.

A : Ice cream !

(T : teacher A : A チーム B : B チーム)

ふだん耳にしている、意外に単語と結びつかないものも多くあり、いろいろな気づきにもつながります。これも子どもたちに人気の活動で、「次は“t”にして!」「“s”がいい!」などというリクエストも聞かれました。ことばや文字に興味・関心が広がる活動です。

#### コミュニケーションが広がるアクティビティ

一人一台の学習者用端末が支給されている今、使わない手はありません。私自身、ICT が得意なわけではないのですが、アナログとデジタルを適度に使い分け、授業づくりをしています。

Google Workspace™ の機能のひとつで、デジタルホワイトボード、Google Jamboard™ (ジャムボード。以下 Jamboard) は、いろいろなアクティビティで使えて便利です。

### 【1】なんでもビンゴ

いわゆるビンゴです。ビンゴカード用紙を使ってもいいのですが、紙だと1回使用したらもう使用できません。Jamboard を使ってビンゴシートを作れば、簡単で、繰り返し使用できます。果物、野菜、色、アルファベットなど、いろいろなテーマで行うことができ、おすすめです。

9つのマス、その周囲に扱うテーマに関するイラストを多めに準備します。各自が好きなイラストを指でマス内にスライドして準備完了です。お互いに、マス内にそれがどうか質問しながらビンゴを行います。手書き機能もあるので、○を描いたり線を引いたりもでき、楽しんでやり取りを行えます。



学習者用端末上でビンゴを行う様子。

以下はやり取りの例です。

S1: Do you want a strawberry? (自分のマスにあるものを尋ねる)

S2: (マス内にイチゴがあれば) Yes, I do.  
(自分のマスにあるものを尋ねる) Do you want a carrot?

S1: (マス内にニンジンがなければ) No, I don't.

### 【2】相手のための○○作り

自分の好きなものを集めたり、取り入れたりすることも楽しいですが、相手のために何かを作る活動にも、子どもたちは大変意欲的に取り組みます。誰のために作るのかをはっきりさせることで、相手意識をもって活動に取り組めるようになります。

#### ① 6年生のための「卒業お祝い給食メニュー」を考えよう!



オリジナルカレーを考えるための Jamboard 画面

6年生が好きなものを事前にインタビューしてリサーチし、それをもとに栄養のバランスも考慮し、グループでオリジナルメニューを考える活動です。

(3人グループの会話例)

A: What do you want?

B: I want carrot.

A: OK.

C: I want cheese.

A: Me, too.

デジタル画面の Jamboard を使用することで、取り入れたものをすぐに反映させたり、視覚化させて全体のバランスを考えたりすることができます。また、作ったものをすぐに全体で共有できるので、他のグループの作品の良さを知ることでもでき、自然と認め合う雰囲気が生まれます。

#### ② 友達のためにお道具箱セットを作ろう!



お道具箱セット作りのための Jamboard 画面

相手が必要なもの、欲しいものを質問しながら、その場で道具箱を作っていく活動です。What do you want? だけでなく、欲しい数や好きな色を聞くなどして、活動を広げることも可能です。



相手の伝えたいことがわかり、自分の思いも伝えることができると、コミュニケーションが断然楽しくなります。

### Enjoy communication!

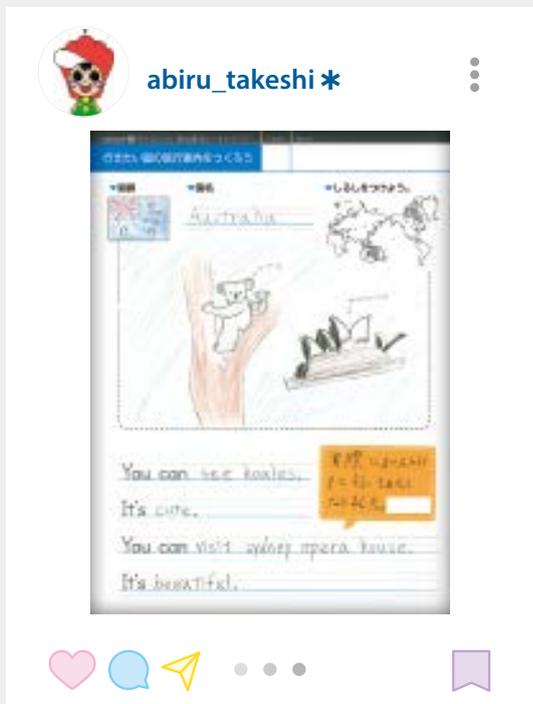
外国語はコミュニケーションのツールのひとつ。あいづちをうったり、質問し合ったりなどリアクションをしながら、コミュニケーション自体を楽しみ、人と接することの心地よさを味わってほしいです。

# Smiles' Park

全国の先生方のひと工夫を紹介します!



世界のことを自分で調べよう! (6年 Lesson 5 What country do you want to visit? 行きたい国)



アイコンは匝瑳市のキャラクター「あっぴいちゃん」です

6年 Lesson 2 Welcome to Japan. の学習で、児童は日本の文化が世界に広がっていることを知りました。そこで、世界に目を向け、自分が行ってみたい国について調べてまとめ、発表する活動を、以下のように計画して行いました。

- ①外国の動画を視聴し、海外への関心を高める。
  - ②タブレット端末を使い、観光名所や文化について調べ、まとめる。
  - ③ツアーコンダクターとなり、クラス全体に発表する。
- 発表を終え、児童からは「料理など初めて知るものもあった」「調べるなかで、日本と同じようなところがあった」などの感想が聞かれました。作成したワークシートは友達どうしで読み合い、感想も書き込みました。

提供：あびる たけし 先生

(千葉県匝瑳市立共興小学校 教諭)

#発表 #書くこと #読むこと #調べ学習 #行きたい国



## Information

### ◆『ONE WORLD Smiles だより』 vol.2 を ウェブサイトに掲載しました



Vol. 2の「すぐに役立つ活動集」に関連し、デジタルベースの「振り返りシート」と「既習表現のシート」を公開しています。ご活用ください。



### ◆ 6年 Lesson 8「将来の夢」の参考動画ご紹介 「海外の子ども 100人の夢」(YouTube™)

3分半の動画で、100人の子どもたちが将来の夢を教えてください(字幕付き)。「先生」「弁護士」「俳優」「スパイダーマン」「ポケモントレーナー」「……考え中」など、さまざまな答えが飛び出します。子どもたちの豊かな表情もぜひ味わって。



### ◆ 編集後記 ~ Editorial Note ~ Spring Has Come!

早春のイベントと言えばバレンタインデー (St. Valentine's Day) があります。アメリカでは「愛と感謝の日」として、家族や友達など、大切な人にカードやお花、プレゼントを贈り合うのが一般的です。小学校では、Love をテーマに作文や作品をつくる授業をすることも。学年末に向けて、感謝や想いを込めてカードに Thank you. と丁寧に書いて、友達や大切な人に贈り合う活動も素敵ですね。



〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル 西館  
TEL:03-5579-6278 (代表)  
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

こちらから  
弊社小学校英語サイトに  
アクセスできます。



本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配布を許可されているものです。